

ポリビア社会経済研究所(研究機関紹介)

著者	遅野井 茂雄
権利	Copyrights 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	ラテンアメリカレポート
巻	3
号	1
ページ	30-30
発行年	1986-03-20
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00006746

CERES : Centro de Estudios de la Realidad Económica y Social

遅野井茂雄

(中南米総合研究プロジェクト・チーム)

ボリビアの数少ない社会科学系の研究機関のうち、調査研究に専ら従事しているのは、社会経済研究所 (Centro de Estudios de la Realidad Económica y Social : CERES) だけである。ラパスの他にコチャバンバとサンタクルースにも研究所支部を設け、ボリビアのあらゆる面での多様かつ異質な現実 (Realidad) に即応した研究を行なおうとしている点もCERESの大きな特徴といえよう。

CERESは、サンアンドレス大学など政治化した国立の付属機関に飽き足らず常設の調査研究機関の必要性を痛感した知識人・研究者たちによって、1978年に創設された。初代所長は、フェルナンド・カルデロン (社会学) であり、創設以来の中心人物であった同氏がCLACSOの事務局長 (プエノスアイレス) に移った後は、ホセ・ブラネス (社会学) が所長を

を示す分野としては、農村問題、都市問題、公共政策、社会運動、女性問題、国内移住があげられる。資金面では、カナダ、西ドイツ、オランダ、アメリカなど欧米諸国の援助機関や財団および国連諸機関に専ら依存しているのが現状であり、ボリビア政府からの資金援助は皆無である。

現在進行中の研究計画は、(1)地域的な社会運動に関する比較研究 (ペルー、エクアドルの研究機関との共同研究)、(2)国内移住の研究 (アルゼンチンのCEDESと共同)、(3)ラパスの低所得層居住区の消費形態と経済政策との関係、(4)先住民族に対する国家の教育政策などの他、CLACSOの援助による人口研究計画、また国連のFIDAやカナダのIDRCの援助によって進められている小農民層への農業信用の効果的な流れに関する研究など、政策的な調査を含んでいる。また将来は、国際食糧計画に関連した研究計画を実施する予定である。

研究成果の普及は、発足当時の内部資料的な形態から3年前によく本格的な出版活動を通じて実施されるようになった。出版件数のうち約9割が研究成果に当てられており、コチャバンバの農村社会に焦点をあてたシリーズの他、出版物のなかには、『ボリビア農民運動史』『都市政策』『都市化とエスニック——ラパスの事例』『地域権力』『ボリビア——農民経済と食糧市場』などがある。この他E・タンデールとN・ワシュテル、U・フェルナンデス、K・ヒーリーの研究など、ボリビアに関する内外の重要な研究が出版物のなかに含まれている。



社会経済研究所。円内はブラネス所長。

務めている。主要な研究者としては、ホセ・ダンドレル (人類学)、レネ・マヨルガ (社会学)、フリオ・プルデンシオ (経済学)、ゴンサーレス・フローレス (社会学)、ロベルト・ラセルナ (経済学)、アルベルト・リベラ (社会学) などを擁し、さまざまな学問領域から研究が進められている。特に関心

連絡先 : CERES, Calle Campos 348, Casilla 10018, La Paz, BOLIVIA
Telefs : 364725, 321643